



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月10日
東

上場会社名 株式会社オーイズミ 上場取引所
 コード番号 6428 URL http://oizumi.co.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)大泉 秀治
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)北村 稔 (TEL) (046)297-2111
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	8,710	△8.7	802	△21.9	887	△24.8	575	△26.0
2021年3月期第3四半期	9,543	5.5	1,027	△12.4	1,180	6.3	776	20.2

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 558百万円(△30.3%) 2021年3月期第3四半期 800百万円(25.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	25.56	—
2021年3月期第3四半期	34.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	34,954	16,854	48.2
2021年3月期	36,150	16,499	45.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 16,854百万円 2021年3月期 16,499百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	—	—	9.0	9.0
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	9.0	9.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,920	△14.7	660	△57.0	750	△57.1	480	△59.4	21.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	22,500,000株	2021年3月期	22,500,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	4,672株	2021年3月期	4,642株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	22,495,357株	2021年3月期3Q	22,495,358株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が、ワクチン接種率の向上による感染者数の減少や政府や自治体による各種施策の効果等により徐々に緩和される中、経済活動は持ち直しの動きがみられましたが、高い感染力を有する変異株の急速な感染再拡大により、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの主要販売先となる遊技場は、長期化する新型コロナウイルスの影響を受け、集客並びに稼働の低迷は回復に至らず、経営環境は厳しい状況が続いております。

遊技場の設備投資に対する姿勢は、2022年1月末を期限とした旧規則機の撤去に伴い、新台入替えが比較的好調に推移したパチンコ遊技機に対し、パチスロ遊技機については、遊技場の保有する中古機への入替え、遊技台の間引き営業等、新台入替はやや低調に推移し、現行規則の解釈基準の変更を見据えた慎重かつ先送りの状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループでは市場動向を的確に捉え、マーケットニーズに対応すべく製品の企画、開発を進め、競争力のある製品の市場投入に努めてまいりました。

特に、当社の中核事業である遊技機部門においては、規則改正等に柔軟に対応できる体制強化を図り、良質なIPの取得と独創的なゲーム性の製品開発を進め、シェア拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高8,710百万円(前年同期比8.7%減)、経常利益887百万円(前年同期比24.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益575百万円(前年同期比26.0%減)となりました。

なお、セグメントの業績は、次のとおりであります。

(機器事業)

機器事業は、周辺機器部門においては新規機への入替対応や先行き不透明な状況において、設備投資スタンスは抑制的であり、販売状況は大変厳しいものとなりました。遊技機部門においては前連結会計年度に市場投入した「パチスロひぐらしのなく頃に祭2」の高評価を受けての再々販、「パチスロ東京レイブズ」及び、「パチスロかまいたちの夜」を市場投入し、販売台数の確保に努めました。

この結果、当第3四半期は売上高5,176百万円(前年同期比7.8%減)、セグメント利益399百万円(前年同期比43.6%減)となりました。

(不動産事業)

不動産事業は、東京都千代田区内に賃貸用不動産(1,523百万円)及び神奈川県横浜市旭区内に賃貸用不動産(613百万円)を取得しました。また、より一層の安定的な収益確保に向け、収益性の高い、良質な賃貸物件を継続的に模索しつつ、不動産の保守、管理の徹底に努めてまいりました。

この結果、不動産事業は、当第3四半期は売上高633百万円(前年同期比8.4%増)、セグメント利益326百万円(前年同期比4.1%増)となりました。

(電気事業)

電気事業は、継続的安定供給に向け、太陽光発電設備の徹底した保守、管理を実施し、順調に稼働させており、安定した収益を確保いたしました。

この結果、電気事業は、当第3四半期は売上高739百万円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益335百万円(前年同期比15.7%増)となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業は、連結子会社2社/株式会社オーイズミ・アミュージオ、及び株式会社レッド・エンタテインメントが、海外ゲームのローカライズを中心に6本のゲームソフトをリリースしました。

この結果、コンテンツ事業は、当第3四半期は売上高406百万円(前年同期比45.5%減)、セグメント利益28百万円(前年同期は10百万円の損失)となりました。

(食品事業)

食品事業は、連結子会社株式会社下仁田物産が主力商品である蒟蒻類、蒟蒻ゼリーの製造、販売において自社ブランドである「蒟蒻工房」の認識度向上を図るべく、様々なメディアへのアプローチにより販路拡大を進めてまいりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人々の健康意識の高まる状況の中、付加価値商

品の開発に注力し、食物繊維を多く含む「国産野菜の蒟蒻ゼリー」の受注活動を開始いたしました。また、海外輸出再開の動きが見られる状況下において、多様な蒟蒻商品の開発に取り組み、海外展開の拡大を図っております。

この結果、食品事業は、当第3四半期は売上高1,669百万円（前年同期比5.7%減）、セグメント利益91百万円（前年同期比15.6%減）となりました。

（その他事業）

その他事業は、連結子会社 妙高酒造株式会社が酒類の製造販売を行っておりますが、主な得意先である飲食店等において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止による休業、時短営業の影響を大きく受け、出荷量並びに販売高は減少いたしました。

この結果、その他事業は、当第3四半期は売上高84百万円（前年同期比7.1%減）、セグメント損失32百万円（前年同期は15百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（2021年3月31日）に比べ1,196百万円減少し、34,954百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2,912百万円減少し、13,705百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少（2,024百万円減）受取手形及び売掛金の減少（459百万円減）、電子記録債権の減少（136百万円減）、商品及び製品の減少（170百万円減）、仕掛品の減少（495百万円減）の一方で、その他に含まれる前渡金の増加（385百万円増）によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,716百万円増加し、21,248百万円となりました。これは主に賃貸用不動産の取得による建物及び構築物の増加（535百万円増）並びに、土地の増加（1,465百万円増）の一方で、機械装置及び運搬具の減少（262百万円減）によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,551百万円減少し、18,099百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の減少（1,270百万円減）、未払法人税等の減少（302百万円減）の一方で、長期借入金の増加（237百万円増）によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ355百万円増加し、16,854百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加（372百万円増）によるものです。

この結果、自己資本比率は48.2%と前連結会計年度末に比べ2.6ポイント増加しました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期の業績予想につきましては、2021年11月12日付決算短信の発表数値からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,397,504	8,372,554
受取手形及び売掛金	1,591,682	1,132,663
電子記録債権	640,561	504,025
商品及び製品	818,258	647,282
仕掛品	884,059	388,969
原材料	1,542,492	1,460,554
コンテンツ	1,002	2,062
その他	749,993	1,203,628
貸倒引当金	△7,003	△5,751
流動資産合計	16,618,552	13,705,990
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,179,855	5,715,535
機械装置及び運搬具(純額)	3,046,860	2,783,868
工具、器具及び備品(純額)	132,847	139,415
土地	9,382,758	10,847,976
リース資産(純額)	188,612	131,941
建設仮勘定	14,223	65,439
有形固定資産合計	17,945,158	19,684,175
無形固定資産		
ソフトウェア	64,234	68,416
のれん	89,868	73,018
その他	17,033	15,354
無形固定資産合計	171,136	156,789
投資その他の資産		
投資有価証券	324,003	299,579
長期貸付金	1,543,500	1,553,500
繰延税金資産	198,907	212,148
長期前払費用	308,645	311,598
その他	287,624	287,616
貸倒引当金	△1,247,387	△1,257,387
投資その他の資産合計	1,415,293	1,407,055
固定資産合計	19,531,588	21,248,021
資産合計	36,150,140	34,954,011

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,848,088	1,577,393
短期借入金	1,130,000	1,120,000
1年内返済予定の長期借入金	2,557,693	2,501,007
未払法人税等	360,737	58,139
リース債務	72,698	64,796
賞与引当金	65,207	29,436
製品保証引当金	4,000	2,000
その他	555,525	442,616
流動負債合計	7,593,949	5,795,389
固定負債		
長期借入金	10,438,332	10,676,292
リース債務	120,076	69,703
役員退職慰労引当金	395,545	406,403
退職給付に係る負債	71,686	67,938
長期預り保証金	702,798	753,449
資産除去債務	326,931	328,799
その他	1,733	1,379
固定負債合計	12,057,104	12,303,965
負債合計	19,651,053	18,099,354
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,006,900	1,006,900
資本剰余金	673,700	673,700
利益剰余金	14,794,781	15,167,397
自己株式	△4,311	△4,322
株主資本合計	16,471,069	16,843,674
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,017	10,982
その他の包括利益累計額合計	28,017	10,982
純資産合計	16,499,087	16,854,656
負債純資産合計	36,150,140	34,954,011

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	9,543,212	8,710,678
売上原価	6,709,940	6,177,002
返品調整引当金繰入額	286	—
売上総利益	2,832,985	2,533,676
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	132,352	134,106
販売促進費	318,971	287,766
役員報酬	149,768	150,339
給料手当及び賞与	256,971	234,216
賞与引当金繰入額	11,132	17,928
退職給付費用	14,485	11,090
役員退職慰労引当金繰入額	7,345	10,858
製品保証引当金繰入額	3,000	2,000
貸倒引当金繰入額	△8,533	△1,252
その他	919,831	884,369
販売費及び一般管理費合計	1,805,325	1,731,423
営業利益	1,027,660	802,252
営業外収益		
受取利息	5,685	5,877
受取配当金	6,324	5,592
雇用調整助成金	150,452	128,634
保険解約金	70,750	—
企業立地奨励金	38,808	3,789
その他	34,223	17,232
営業外収益合計	306,244	161,126
営業外費用		
支払利息	59,438	55,041
貸倒引当金繰入額	84,500	10,000
その他	9,639	10,742
営業外費用合計	153,578	75,784
経常利益	1,180,326	887,594
特別利益		
固定資産売却益	2,782	1,611
投資有価証券売却益	—	450
役員退職慰労引当金戻入額	70,956	—
特別利益合計	73,739	2,061
特別損失		
固定資産除売却損	798	34
特別損失合計	798	34
税金等調整前四半期純利益	1,253,267	889,621
法人税、住民税及び事業税	461,399	320,284
法人税等調整額	15,004	△5,737
法人税等合計	476,404	314,546
四半期純利益	776,863	575,074
親会社株主に帰属する四半期純利益	776,863	575,074

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	776,863	575,074
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,913	△17,035
その他の包括利益合計	23,913	△17,035
四半期包括利益	800,776	558,039
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	800,776	558,039
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品および製品の販売において、出荷時から当該商品および製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

また、販売手数料等の顧客に支払われる対価については、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果による当第3四半期連結累計期間の売上高及び売上総利益に与える影響は軽微であり、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益への影響はありません。また、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	機器事業	不動産事業	電気事業	コンテンツ事業	食品事業
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	5,616,822	584,583	735,042	745,623	1,770,033
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	3,012	36,988	—	2,492	6,655
計	5,619,834	621,572	735,042	748,115	1,776,689
セグメント利益又は損失(△)	708,335	313,447	290,259	△10,251	108,670

	その他(注)1	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
(1)外部顧客に対する売上高	91,106	9,543,212	—	9,543,212
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	83	49,231	△49,231	—
計	91,189	9,592,444	△49,231	9,543,212
セグメント利益又は損失(△)	△15,473	1,394,987	△367,326	1,027,660

(注) 1 妙高酒造株式会社が運営する酒造事業を「その他」としております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△367,326千円は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	機器事業	不動産事業	電気事業	コンテンツ事業	食品事業
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	5,176,496	633,813	739,337	406,386	1,669,992
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	3,864	30,798	—	5,272	5,754
計	5,180,360	664,611	739,337	411,658	1,675,746
セグメント利益又は損失(△)	399,688	326,316	335,772	28,885	91,674

	その他(注)1	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
(1)外部顧客に対する売上高	84,652	8,710,678	—	8,710,678
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	140	45,829	△45,829	—
計	84,792	8,756,507	△45,829	8,710,678
セグメント利益又は損失(△)	△32,091	1,150,245	△347,993	802,252

(注) 1 妙高酒造株式会社が運営する酒造事業を「その他」としております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△347,993千円は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載の通り、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、当該変更による報告セグメントの売上高に与える影響は軽微であり、セグメント利益又はセグメント損失に与える影響はありません。